

Lecture 12

Date & Place: 2009 February 20th、アルバミンチ

Title of lecture: 「グループ演習・報告会」

Lecturers: 重田眞義（京都大学）

Summary:

アルバミンチ周辺には、国立公園における野生生物保全、織物に従事する人びとが暮らす村、そしてタルバシステムと呼ばれる在来の農法を実践する人びとが暮らす村など、非常に多様なテーマをみいだすことができる。ここでは、参加者が3つのグループにわかれて半日のフィールド調査をおこない（写真6）、その後その成果を互いに報告しあった。（写真7）国立公園について演習をおこなったグループは、公園内で人びとが生活している点について指摘し、エチオピアの国立公園がケニヤやタンザニアの国立公園のように囲い込んで特定のエリアを保護するという西欧近代的な思想を基礎にしたものとは異なり、エチオピアの歴史的な変遷とむすびについていることを報告した。エチオピアの在来農法（タルバ・システム）について演習をおこなったグループは、農作業の様子ばかりではなく、ソルガムを貯蔵するポータイタという貯蔵庫と安定的な食料の供給とのかかわりという点について報告した。織物に従事する人びとの村で演習をおこなったグループは、男性の織り師が、綿の生産地へ織りの出稼ぎへいくあいだ、村に残った女性たちがおこなっている生業活動や観光に関わること、近年導入しようとしているリンゴ生産について報告をおこなった。



写真6



写真7